

# 校内研究構想

東白川小学校

## 児童の実態

- 明るく素直な児童が多く、意欲的に学習に取り組むことができる。
- ハンドサインを活用し、深まりのある話し合いができる姿が定着してきた。
- 基礎学力の定着に個人差がある。
- 立場を明確にして質問や意見を述べる力や、分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付け、まとめて書く力に弱さがある。
- 出し切った満足感は感じているが、自分の良いところに自信がもてない児童がいる。

## 学校の教育目標

せいっぱい  
きたえ  
のびよう  
東っ子

自分を出し切り  
「笑顔いっぱい」の学校」に

## 東白川村教育夢プラン

### 【目指す子ども像】

- ① 自ら考えやり遂げる、主体性を持った子
- ② ふれあい助け合える、思いやりのある子
- ③ たくましい体力と気力を持った元気な子
- ④ ふるさを愛し、ふるさを誇れる子
- ⑤ 社会の一員という自覚を持ち、規範を重んじ貢献できる子

## めざす姿

- ・自分に自信をもち、主体的に学び、相手意識をもって話したり書いたりすることができる子
- ・安心して自分の考えを伝え合える「心が開かれた」集団
- ・郷土のよさに気付き、郷土を愛する心情や態度がもてる子

## 研究主題

進んで出し切り，自分に自信をもつ子どもの育成  
～子どもが出し切りたくなる授業，自分を見つめさせる指導～

## 研究仮説

少人数でこそそのメリットを最大限に活かした指導のもとに、子ども達が出し切りたくなる授業をし、子ども自身の変容を見つめさせる活動を意図的に仕組めば、進んで自分を出し切り、教師や仲間とともに学習を深め、自分のよさに自信をもつ子どもを育成することができる。

## 研究内容

### 研究内容1 出し切りたくなるための授業の工夫

- (1) 出し切った子どもの姿の明確化
  - ・「授業で出し切った（出し切っている）」子どもの姿の具体的なイメージを授業者がもち、授業を行う。
- (2) 子どもが出し切りたくなるための学習活動の工夫
  - ・学習の必然性があり、子どもが主体的に取り組める課題を設定する。
  - ・「対話的で深い学び」につながる発問や学習形態を工夫する。
- (3) 少人数であることのメリットを活かした3つの見届けの実践
  - ・特に学習の定着状況の見届けを確実にし、個に応じた支援を行う。
  - ・「今日の出し切る」で本時の乗り越えどころを明確に児童に示し、その点についての定着状況を確実に把握し、指導しきる指導姿勢を全教師がもつ。

### 研究内容2 適切に自己評価するための指導の工夫

- (1) 自己評価するための場の設定
  - ・出し切るファイルを活用し、授業の終末に「出し切る」について振り返る「見つめる」活動を位置づける。
- (2) 少人数であることのメリットを活かした適切に自己評価するための教師の工夫
  - ・単元や授業のはじめと終わりの子どもの変容を子どもに捉えさせる工夫をする。
  - [学んだ内容、できるようになったこと（できなかったこと）、学び方で身についたこと等]